

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627番地		
自己評価作成日	平成25年12月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172200210-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172200210-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様一人ひとりが、その方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮し、人としての尊厳を遵守するケアを念頭に支援させていただいています。また、重症化の状況にも対応し、ご家族様、主治医との連携を密にしながら、看取り業務に万全を期すよう体制づくりをしています。常日頃からご家族様のご相談やご要望にも耳を傾け、ご本人のみでなく、ご家族様にも、ご満足いただけるケアを提供できるように努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員一人ひとりが利用者本位に考え、楽しみとなるアイデアを提案し話し合いながらケアにつなげている。玄關の雛飾りも季節感と共に利用者に懐かしい時代を思い出させ、それを昔話につなげている。利用者が重度化し、出来ていたことができなくなっても、今できることを探して支援している。家族に近況を便りで知らせ、家族アンケートで要望や意見を求め、利用者が居心地よく暮らせるように図っている。重度化や終末期にも、家族や医師と相談しながら看取りの支援に取り組んでいる。管理者は職員が個々の力量を発揮できるよう研鑽させている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の冒頭に、運営理念、職員の心得を唱和し、全職員で共有の確認と日々実践できるように努めている。	利用者一人ひとりが生きがいをもって暮らしてもらうことを理念として、その理念を職員が共有している。管理者と職員は、利用者本人の気持ちを汲み取ったケアが出来ているか、確認しながらケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	周辺散歩は多く取るようにし、近くの喫茶店も時々行くようにしている。また、気候のいい時期には花見等に出掛けている。地元の二つの保育園とは七夕やクリスマス会を通じて交流している。さらに、運動会にも参加している。	保育園の行事に参加したり、事業所の行事に招いたりして交流をしている。地域の廃品回収の協力や、「何でも相談会」を開いて地域住民と交流を深めている。自治会の福祉委員として、集会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時民生委員の方々を通じお話しすることがある。退所後の方にもアドバイスやサービスの利用について情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場において地域のつながりをどうするかご意見を伺い今年度は近くの小学校の福祉委員会に参加し会議に出向いている。	メンバーの協力が活発な意見交換をしている。特に自治会長からの水害対策の質問があり、これを今後の議題としている。会議に欠席した家族にも報告し意見を求めている。家族アンケートの結果も発表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと活動状況を把握していただいている困難事例等の相談や情報提供を行い連携を深めている。	市役所に出向いて、他地域からの入居の相談、申請、困難事例など、市の担当者から助言、指導を受け話し合いをしている。また、事業所の近況を報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する勉強会を職員会議を通じ理解徹底に努めている。ご利用者様に抑圧感を感じさせない暮らしができるケアを目指している。	身体拘束はしていない。利用者の状態に気になることがあっても、会議で話し合いをして、拘束をしなくてもよい代替の方法を工夫をしている。職員は外部研修と内部研修に参加して、拘束に関する学習をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の場で高齢者虐待に関する勉強会を実施することで正しい知識を理解し話し合いを検討するような管理体制や職場風土の構築に取り組んでいる。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会には参加できておりませんが成年後見制度についてはケアマネ連絡会において勉強させていただき利用できる時があれば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には話しやすい雰囲気作りに努めている。ご意見を頂いたアンケート要望が出た時には職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる。	利用者には常に声かけで意見を求めている。家族には、訪問時に必ず声をかけ、便りや、年1回の家族アンケートで、運営や職員の接遇などたずね、運営や職員育成の参考にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見のしやすい雰囲気作りに心がけている。	管理者は年2回の職員個別面談をして意見や要望を聞いている。会議で備品の修理してほしいとの意見があり直ちに対応した。機械浴への要望は管理者会議で検討したが、現在は隣接ホームの浴槽で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は勉強会としては参加できていないが個々で無料研修等に参加し心のトレーニングをするように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議での毎月の会議や勉強会を実施することで情報交換できる場がある。夏祭り合同運動会で交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において生活状況や家族状況を把握するようつとめている。ご本人の気持ちを受け止めながら入所生活に活かせる信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の苦労や今までのサービスの利用状況などこれまでの経緯についてゆっくり話を伺いながら早期に信頼関係を築づけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事ご本人や家族の思い状況等を確認した上で可能な限り柔軟な対応を行い必要としている支援に添えるよう相談を繰り返すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い苦しみ不安喜びなど共感し共に支えあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努めご本人を支えていく為の協力関係が築けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月に家族と一緒に過ごされる利用者様もいる。ご家族となじみの理容院や医院にも出掛けられている。人とのつながりを継続できるよう支援している。	毎日の言葉がけや表情から気づくことや、家族にたずねて馴染みの人、場所など知る努力をしている。美容院や喫茶店など、得られた情報は、大切に継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しくお食事したり散歩レク等を利用し関係が円滑になるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られたり他の施設に移られた場合でも相談に乗ったり状況把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で雰囲気やしぐさ言動などから思いや意向の把握が出来るよう信頼関係の把握に努めている。困難な場合は御家族からの情報をもとにケアにいかす様努めている。	利用者との雑談や、好き嫌いの二者選択の場面から希望を把握している。親族、同級生、美容院や受診時に会う人など、会いたい思いを把握している。困難な利用者には表情、態度から把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつご本人や御家族等のかかわりの中で生活歴等暮らしの中で取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズム心身状態を記録し職員が情報を共有し申し送り等を取り入れ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族に日々の生活の中で思いや意見を職員全員で意見交換を行っている。意見をもとに介護計画を作成するよう努めている。	個別の記録と職員の気づきを、毎月会議で話し合っている。家族の要望やかかりつけ医の意見を聞き、担当者会議で検討し適切な介護計画となるよう作成している。状況の変化時は速やかに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのファイルに食事量水分量排泄状態等身体的状況日々の暮らしの様子を記録し申し送りし職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族の状況に応じて通院や送迎や家族の方への夕食の提供をする等個々の満足度を高めるよう柔軟な支援に努力している。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政消防署民生委員駐在所自治会長等の参加を呼びかけ周辺情報や支援に関する情報の交換協力関係を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時入所後もご本人ご家族の希望を確認しながら協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるように支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いも行っている。	入居前からのかかりつけ医と事業所の協力医との選択は家族の希望に合わせ自由としている。かかりつけ医と家族との間は看護師が調整をして情報の共有を図っている。協力医とは緊急時対応の連携をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調変化や健康管理に注意を払い早期の段階で家族に報告し協力医療機関へ受診投薬できるよう心がけている。看護職員不在時による併設の看護職員との連携をはかり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携をはかり情報提供できるよう心がけている。入院中も出来るだけ見舞い早期に退院支援に結び付けられるよう情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を踏まえ医師、職員が連携を取り随時意見確認しながら取り組んでいる。	契約時に、看取りの指針を説明し、「急変時対応希望書」を取り交わしている。利用者の状態を見ながらその都度、その都度、家族や医師と話し合いながら看取りをしている。職員も看取りの研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。救命訓練を実施し指導受けられるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用し周辺の福祉施設、市町村、警察署との協力体制と地域住民の方との協力体制と災害対策や体制についての構築に結び付けられるよう努めている。	3グループホーム合同で夜間想定を含め避難訓練をしている。消防署、警察署・自治会長、民生委員の参加を得て訓練後の意見も聞いている。しかし、近隣住民の協力がなく、水害対策の話し合いにも至っていない。	自治会の福祉委員として集会に参加し、地域住民と協力体制づくりについて話し合える機会を持つことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩の方々に尊厳の念を持って接し誇りやプライバシーの確保は常時保てるよう対応している。	年長者として人格を尊重し、言葉使いの配慮をしている。「振り返りチェック表」を利用し、利用者への個別の対応が出来ているかどうかを確認している。居室への入室には必ず事前に声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が話す少しの言葉や表情から真意を汲み取りご本人に対するケアの情報共有に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の1日過ごし方を把握した上で体調、天候などを考慮し過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた服は直ちに交換し整髪、洗髪の支援はご本人ご家族の意向に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みのものを把握し季節のものを嚙下状態に応じて個別の食事形態にて提供する。	冷蔵庫の食材を基に、利用者の好みに合わせ、ユニットごとに担当者が手作りしている。職員は、食事が楽しみとなるよう、食材の話や、自力で食べられるよう声かけしている。利用者の起床に合わせて朝食を準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は介護記録に記入し多い少ないが一目でわかるようにしている。ペースにあわせて提供するタイミングやメニューを変えられるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯の手入れが出来る方は御自分で行っていただきその方の状態にあった口腔ケアを行っている。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握しご本人の表情やサインを見逃さず迅速に対応できるようにしている。	入居後1週間ほど排泄の様子をみて、パターンを把握している。家族と相談しながら、本人に適したパットを使用している。オムツからリハビリパンツ、パットの種類を変えるなど自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の排便状況を把握し水分を多めに摂ったり腹部のマッサージに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭用サイズの個浴にご自分のペースでゆっくり入浴できるよう工夫している。一般浴困難な方は機械浴を行っている。	入浴は利用者の希望に合わせ、毎日、順番をその都度聞いている。ゆったり、のんびり歌を歌ったり、花を浮かべたり、入浴剤などで楽しみとなるよう工夫している。個浴か機械浴かは利用者の状態に合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や体力を把握し日光浴や適度に昼寝行うなど休息安眠できるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方箋は職員がいつでも確認できるようリビングに設置してある。利用者の状態に応じ確実に服薬できるよう飲みやすさの工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日のかかわりの中で出来ることを見つけ出し楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の体調や天候に応じて行っている。	季節の外出行事や近隣への散歩には車椅子の人も一緒に出かけ、住民には声をかけている。外食や喫茶店にも行き、テラスでのテイクアウトも設けている。ボランティアが車椅子の修理清掃に来ているが、地域住民のボランティアへの交流や支援が十分ではない。	地域住民の協力を得ながら、安全な外出支援ができるよう期待したい。



グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないように御家族と話し合い満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話しやすいように声掛けし直接お話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にイベントの飾りつけをし季節感を取り入れ生活観が伝わる空間作りを心がけている。	玄関に豪華なひな段を飾り、季節の訪れを表している。掘りごたつのある畳のスペースがあり、そこで寛ぐことができる。ソファを利用者の好みの場所に置き、テレビや庭を見やすいように配置に工夫をこらしている。高い天井からの照明光も適している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファで仲の良い方が近くで話せるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた品 使い慣れたものの精神的に負担がかからないよう工夫している。	家族写真、位牌など家族と相談して持参している。鏡が気になる利用者にはカーテンをつけて目隠ししている。使い慣れた電気剃刀を持参し使っている。居心地良く安心できる配置にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や車椅子での動線確保に気を配り安全で自由に動いていただけるよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627番地		
自己評価作成日	平成25年12月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172200210-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172200210-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人ひとりが、その方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮し、人としての尊厳を遵守するケアを念頭に支援させていただいています。また、重症化の状況にも対応し、ご家族様、主治医との連携を密にしながら、看取り業務に万全を期すよう体制づくりをしています。常日頃からご家族様のご相談やご要望にも耳を傾け、ご本人のみでなく、ご家族様にも、ご満足いただけるケアを提供できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の冒頭に、運営理念、職員の心得を唱和し、全職員で共有の確認と日々実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺散歩は多く取るようにし、近くの喫茶店も時々行くようにしている。また、気候のいい時期には花見等に出掛けている。地元の子供の保育園とは七夕やクリスマス会を通じて交流している。さらに、運動会にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時民生委員の方々を通じお話しすることがある。退所後の方にもアドバイスやサービスの利用について情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場において地域のつながりをどうするかご意見を伺い今年度は近くの小学校の福祉委員会に参加し会議に出向いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと活動状況を把握していただいている困難事例等の相談や情報提供を行い連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する勉強会を職員会議を通じ理解徹底に努めている。ご利用者様に抑圧感を感じさせない暮らしができるケアを目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の場で高齢者虐待に関する勉強会を実施することで正しい知識を理解し話し合いを検討するような管理体制や職場風土の構築に取り組んでいる。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会には参加できておりませんが成年後見制度についてはケアマネ連絡会において勉強させていただき利用できる時があれば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には話しやすい雰囲気作りに努めている。ご意見を頂いたりアンケート要望が出た時には職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見のしやすい雰囲気作りに心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は勉強会としては参加できていないが個々で無料研修等に参加し心のトレーニングをするように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議での毎月の会議や勉強会を実施することで情報交換できる場がある。夏祭り合同運動会で交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において生活状況や家族状況を把握するようつとめている。ご本人の気持ちを受け止めながら入所生活に活かせる信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の苦労や今までのサービスの利用状況などこれまでの経緯についてゆっくり話を伺いながら早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事ご本人や家族の思い状況等を確認した上で可能な限り柔軟な対応を行い必要としている支援に添えるよう相談を繰り返すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い苦しみ不安喜びなど共感し共に支えあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努めご本人を支えていく為の協力関係が築けるようこころがけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月に家族と一緒に過ごされる利用者様もいる。ご家族となじみの理容院や医院にも出掛けられている。人とのつながりを継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しくお食事したり散歩レク等を利用し関係が円滑になるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られたり他の施設に移られた場合でも相談に乗ったり状況把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で雰囲気やしぐさ言動などから思いや意向の把握が出来るよう信頼関係の把握に努めている。困難な場合は御家族からの情報をもとにケアにいかす様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつご本人や御家族等のかかわりの中で生活暦等暮らしの中で取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズム心身状態を記録し職員が情報を共有し申し送り等を取り入れ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族に日々の生活の中で思いや意見を職員全員で意見交換を行っている。意見をもとに介護計画を作成するよう努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのファイルに食事量水分量排泄状態等身体的状況日々の暮らしの様子を記録し申し送りし職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族の状況に応じて通院や送迎や家族の方への夕食の提供をする等個々の満足を高めるよう柔軟な支援に努力している。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政消防署民生委員駐在所自治会長等の参加を呼びかけ周辺情報や支援に関する情報の交換協力関係を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時入所後もご本人ご家族の希望を確認しながら協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるように支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いも行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調変化や健康管理に注意を払い早期の段階で家族に報告し協力医療機関へ受診投薬できるよう心がけている。看護職員不在時による併設の看護職員との連携をはかり対応している。。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携をはかり情報提供するよう心がけている。入院中も出来るだけ見舞い早期に退院支援に結び付けられるよう情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を踏まえ医師、職員が連携を取り随時意見確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。救命訓練を実施し指導受けられるようとりくんでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用し周辺の福祉施設、市町村、警察署との協力体制と地域住民の方との協力体制と災害対策や体制についての構築に結び付けられるよう勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りや人格を尊重して言葉のかけかた等について会議で話し合いご本人の気持ちを大切にさりげないケアに心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方にあわせ声かけし日常の中で表情や反応を注意不覚キャッチしながらご本人の選びやすい場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしそれに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション、様子を見ながら希望を尋ねたり相談をしながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意向で決めている。個々の生活習慣にあわせ支援しなじみの美容院で希望にあわせてカットしてもらえよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを工夫したり季節の行事の料理を取り入れたり昔ながらの料理など楽しみながら食べて頂ける様くふうしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と一日の摂取量を把握している。食事量水分量も個別にあわせて確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に添った個別支援にて口腔ケアを行っている。		



グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して尿意のない方でも声掛けによりトイレ誘導しすわることでの排泄習慣を大事にしている。オムツやパット類もどの時間帯どのようなものを使用するか明確にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し朝食前に牛乳やジュース等を お出し十分な水分摂取の提供に取り組んでいる。体を動かしていただけるよう体操の声掛けをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	言葉かけや対応の工夫をし入浴日に入っている。一般浴に入れたい方は機械浴に入っている。気分をかえリラックスできるように入浴剤なども入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し生活のリズムを整えるよう努めている。また体調によっては休息していただくよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方箋は職員がいつも確認できるようにリビングに設置している。利用者の状況に応じ確実に服薬できるよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願い出来るような仕事、興味があり力が発揮してもらえるような仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。ごみだし、新聞折、お茶パック詰め。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換の外気浴、テラスでのティタイム近くの食堂や喫茶店にでかける。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関する不安や不満が生じないようご家族と話し合い満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により家族に電話しやすいよう声掛けを行う。かけられない場合は職員が支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事で行った写真などをリビングに掲示し暮らしの場を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時やソファで過ごされる時は仲の良い方どうしがくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みのしなや思い出の品お位牌や家具など想いでのものを置いていただき居心地よく安心していただけるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗が生じた時はその都度職員で話し合い本人の不安を取り除き自立支援につなげられるよう工夫している。		